



2019年10月
第72号

☎ 111-0052
東京都台東区柳橋2-22-3
ウェスレアン・ホーリネス
神学院
☎ 03-3851-3762
FAX 03-3851-3858
振替口座番号
00130-4-364534
名義 ウェスレアン・ホーリネス神学院
発行人 山崎 忍
編集人 文カンホ、後藤貴子
印刷所 ヨベル

「自分が信頼している方を知る」

専任講師 中村 和司



より御礼申し上げます。

「この福音のために、わたしは宣教師、使徒、教師に任命されました。そのために、わたしはこのように苦しみを受けているのですが、それを恥じていません。というのは、わたしは自分が信頼している方を知っており、わたしにゆだねられているものを、その方がかの日まで守ることがおできになると確信しているからです。」

(テモ二一・11、12)

いつも神学院のためにお祈り下さり、またお献げ下さり、心

この9月、神学院では、夏の派遣を終えての退修会が、奥多摩福音の家で持たれました。スタンレー・バンクスの『普段着の聖徒』の学びがなされ、ホーリネスの実際の側面からの多くの光をいただくことが出来ました。また初日の夜には、「使命に生きる喜びと困難」と題し、教師たちがそれぞれの経歴を語り、神学生たちが質問をするという集いが持たれました。この者もそこで話す機会が与えられたのですが、特に準備をしてこなかったこの者は、牧会の現場につい

てのその時の思いをそのまま述べました。具体的に何を話したかは余り覚えていないのですが、ともかく「魂の救いなど喜びもあるが、苦勞、困難の方が多く、大変な事ばかりです。」というような事を申し上げたのを覚えています。それが終わってから何人かの先生方から、「大変ですね。」という声掛けをわざわざいただきました。何か、恵みどころか皆さんに心配をおかけしたのではないかと、反省させられた事でした。確かに正直な思いではありましたが、主の御前に静まる時に、私の労苦などどれほどのものであるのか、全く取るに足りないようなものであつて、まだまだ苦勞したりないと言われても仕方がないものなのだと思われ、何より、真の重荷と苦悩を背負われているのは

主ご自身なのだ、主の御手に抱かれている幸いに、しみじみと感謝と安らぎを覚ええました。自分自身に見える現実と、主イエスにある霊的現実というのは、常に違うものであります。主に仕える者は、どのような真実よりも、主の御真実というものを知っている者でなければなりませんと思います。パウロは冒頭の聖句において、「わたしは自分が信頼している方を知っており」と語っていますが、それがそがパウロをして、幾多の苦難を乗り越えさせて、主の大きな御業に与らせた一つの秘訣ではなかったでしょうか。

神学院での学びも、何を知るよりも、「自分が信頼している方を知る」、そういう学びこそが大事である事を覚えます。ぜひそのような学びが全うされますよう、神学院のため、神学生、教師たちのため、また更なる入学者が与えられますよう、お祈りいただけますと幸いです。

◆神学院夏期派遣報告◆

神の愛は揺るがない

3年 桑原晴美

この夏の派遣で、一番強く思われたのは、神学生を迎え入れて下さる教会の先生方、信徒の方々が、いかに祈って備えて下さっているかという事でした。

だから次々と奇跡が起こるのです。空に虹がかかり、交わりが祝され、普段教会に来られない方がいらっしやる、神様が生きて働いておられる事を実感し、故に教会も生きています、躍動している事を実感させて頂きました。

教会が建てられた土地で、この人達とどう関わりを持っていくか、時にご自分から地域の奉仕に向われ、時に教会を解放して地域の人達を招き入れる、常に祈り、考えておられる先生方のお姿に励まされました。神様はそれに答え、救われる魂を

教会に送り込んでくださっていることも見せて頂きました。

また今回、東京若枝教会の中高科キャンプ、九十九里みぎわ教会の礼拝、塩谷キリスト教会の礼拝で、3回ともマタイによる福音書7章24節から27節より「神の愛は揺るがない」というテーマで説教させて頂きました。同じ聖書箇所から同じテーマで3回説教したのは初めてです。そんなつもりはなかったのですが、説教させて頂く度に不十分さを思い知らされ、また新たに教えられ、書き加え、省き、そうせざるをえなかったのです。

神の愛は揺るがない事を伝え



たいという思いで、精一杯奉仕させて頂きました。が、私自身が神の愛は揺るがないという事を深く体験させて頂いた夏でした。

3回目の夏期派遣

3年 柳泰鉉

今年も、恵みが溢れる夏期派遣でした。まず、山形南部教会には、韓国のオンヌリ教会から31名の大人と子供たちがいらっしやいました。その方々と交わり、また山形駅前に行つて、一緒に路傍伝道をしました。路傍伝道は初めての経験だったので、緊張しましたが、皆さんと楽しく賛美をすることができ、特に、子供たちが積極的に伝道をしている姿を見て感動しました。また、毎朝、岡先生ご夫妻とデイボーションの時間を持ちました。が、先生方との恵みの分かち合いを通して慰められ、励まされ、本当に良かったと思います。

遠州・浜松派遣は去年も行つたので、あまり緊張せずに、楽しく奉仕をすることができまし



た。また、去年から始まった駒ヶ根での知的ハンディキャンプを持つ方々とのキャンプが今年も開かれ、参加しました。そのキャンプで、たくさんの証しや交わりを通して、彼らの純粹な信仰を見て、再び恵まれました。

今年の派遣で与えられた御言葉はコリントの信徒への手紙二12章9節でした。「わたしの恵みはあなたに十分である。力は弱さの中でこそ十分に発揮されるのだ」。神学生になって、いつも自分の弱さに失望し、自分は何もできないかと思っていた私ですが、今年はこの御言葉が与えられ、メッ

セージや証しを準備するとき、自分の弱さも神様が与えてくださった恵みであると感じ、神様の恵みと愛に感謝することができました。今年も暖かく迎えてくださった先生方や信徒の方々に感謝いたします。

夏期派遣を終えて

2年生 岡聖志

いつも私たち神学生のために祈りとお支えをありがとうございます。今年の夏期派遣では、九州、東京、長野、山形、静岡と様々な場所で奉仕する機会を与えられ、良い学びの時となりました。子どものためのプログラムや、証し・メッセージなどを担当しました。ことは、神様のなさる業に信頼し、聖霊様の導きに委ねて一つひとつの奉仕を行うことです。それぞれの場所です。それぞれを精一杯行っていたことを精一杯一週間という短い期間にできることには限界があります。短期間で何ができたか考えると、

一つひとつがあまりに小さなことに思え、むしろ失敗と感じることのほうが多かったように思います。でもその一見「小さなこと」も、神様の大きな宣教の一部であり、神様がその一つひとつを用いてくださることを思うとき、感謝が溢れてきます。自分に委ねられた奉仕に当たっていくとき、期待に込えてなんとかうまくやろうとすることや、その奉仕を通して何か大きなことが起きることを願って祈ることも確かに必要なことだと思えます。でもそれ以上に、全能な神様がえて宣教という愚かな方法を

選ばれ、私にその一端を担わせてくださったことを覚えて、たとえ小さくても精一杯をささげていくこと、そしてそこで直ちに実が結ばれなくても、その労苦が無駄にならないことを信じて祈っていくことが大切であると教えられました。小さく弱いものですが、「恐れるな。語り続けよ。黙っているな」と励ましてくださる神様に従って行きたいと思えます。

夏期派遣の恵み

2年 船津悠大

いつもお祈りありがとうございます。今年も恵みの内に夏期派遣を終えることができました。今回の夏期派遣で特に印象に残った経験は、母教会である淀橋教会の日曜学校のキャンプに参加したことでした。

今年度から日曜派遣教会が変わり、長い間お世話になり、また奉仕させていただいていた淀橋教会の日曜学校の働きを離れることになりました。自分の中で大

きな存在であるところから離れることは、寂しさや不安等のいろいろな感情が伴いました。しかし、わたしの中で最も大きかったものは「私がここから離れてしまつたら、この働きは大丈夫だろうか」という思いでした。つまり、神の働きである日曜学校に対して、神よりも自分の働きの方が影響力があり重要であると無意識のうちに思っていたということです。また、教師としてみんなに影響を与えるという「立場」が失われることを嫌がる、人間的な思いがあったのかもしれない。



実際に離れて半年たった今回のキャンプで、わたしの思いは一変されました。以前まで子供のようだったお友達が大きく成長し、学生スタッフは素晴らしい神の働き手として育っていました。神の働きは、神が責任をもって、先頭に立って進めてくださることがわかりました。主に信頼して、自分の大切なものをいったん主に預けることが必要なこともあると学びました。

今回、以上のようなことを学びましたが、実際いつもそのように生きているかと言われたらそうでもないことも事実です。これからの学びと共に、神とものと深い交わりの内において、主に聞き従いながら信頼して歩むことができるように、お祈りお願いいたします。

神学生として最初の夏

1年 黒木 真菜

神学生として最初の夏の前に、奉仕の数を数えたところ、準備が間に合うか、体力が持つか、



と怯みました。しかしまず関東夏期聖会でコリントの信徒への手紙二・五章より、イエス様の愛が私を駆り立てるのでと励まされて夏期派遣に出かけることができました。九州子どもキャンプでの聖書のお話、柳丸キリスト教会・塩谷キリスト教会・礼拝や青年大会等で証しをさせていただきました。その奉仕を通して気付かされたことは、夏期聖会で与えられた御言葉の通り、聖書のお話や証は、神様から与

えられている恵みの素晴らしさ故に、それが自分の内におさまらないので他人に分かち合うものなのだという事です。

神学院講師 峯野 慈朗

まだ会ったことのない子どもたちを想像しながら、どうすればこの恵み、感動が伝わるか考えつつ準備し、実際に会った子どもたちが真剣にそれを聞いてくれ、応答の祈りを献げる姿を見た時、何とも言えない喜びに満たされました。また、自分が御言葉を伝える者である以前に、御言葉をよく聞く者、従う者であるよう、日々の神様との交わりを大切に思う思いが強められました。奉仕先の教会の先生方が、信徒の方との交わりを、そして地域に遣わされた教会として近隣の方との交わりを大切に、信頼関係を築いておられることを教えていただきました。

夏の働きを終えた9月3日、5日、奥多摩福音の家で神学院の退修会が開かれました。秋の授業に先立って、神学生と神学院教師たちが、共にみ言葉に聞き、交わりを深め祈り合う時です。神学生はそれぞれの夏期派遣の報告をしました。

学びの時間はスタンレー・バックス著の「普段着の聖徒」がテキストで、教師たちが各章を担当しました。普通のクリスチャンが普段の生活の中でホーリーネス、神の愛を輝かせるために、毎日の神との交わりが大切であることが本書のテーマですが、テキストと共に担当の先生方の証しを聞くことが何よりの学びでした。

特に1日目の夜には「使命に生きる喜びと困難」と題された時間があり、次々と教師たちの証しを聞きました。先生方それぞれに性格の違いがあり、人生に訪れる悩み苦しみの時期があ

感謝します。



り、個人と教会に主が現わされる救いの御業があることを、ひしひしと感じました。

賛美の時間もすばらしいものでした。いっしょにご飯を食べ、いっしょにお風呂に入り、時間が空けば卓球大会、楽しい人たちです。お互いのために祈り合っている、充実した時となりました。2日目午後の奥多摩湖散策、ドラム缶橋を渡ったこともよい思い出です。感謝です。

◆編集後記◆

神学院のためのお祈りとお支えを心から感謝します。7月の

関東夏期聖会から始まった夏期伝道期間も祝され、学生たちは、貴重な訓練の場を与えられ、それぞれが霊的に成長する日々を送ることができました。学生たちを快く受け入れ、伝道の機会をお与えくださいました諸教会の先生方、信徒の皆様は心から感謝いたします。特に今年は第4回全国青年大会があり、神学生は賛美チームとして、また実行委員としてそれぞれ奉仕をし、良き学びと交わりの時を持ちました。多くの奉仕が与えられ、疲れがあったと思いますが、神学生はいつも喜び、絶えず祈り、どんなことにも感謝する生活をしていきます。これからも励ましてお祈りをどうぞよろしくお願ひします。

神学院便り第72号では、神学院専任講師の中村和司先生の巻頭言と講師の峯野慈朗先生の退修会の報告、在校生による夏期伝道の恵みの報告、そして、献金者一覧を掲載いたしました。

現在、夏期伝道、退修会、秋期特講を経て、後期の授業が始まっております。そして11月の

第1回神学院入試が控えております。一人でも多くの入学者が与えられるように、また在校生それぞれの霊性、健康が守られ、後期の学びが祝されますように、また指導する教師の健康が支えられますようにお祈りください。

ウェスレアン・ホーリネス神学院入試要綱



* 受験資格 *

- 大学・短大卒業もしくはそれと同等の学力を有すると認められた者
- プロテスタント教会に所属し、受洗後2年以上の者
- 専心宣教会の業に仕える明確な召命感を持ち、このために献身し、牧師の推薦を受けている者

* 受験手続き *

以下の書類を整え、本学院事務所に郵送または持参してください。なお神学院所定の用紙はホームページにもありますので取り寄せてください(①～⑤は学院所定)

- ①入学願書 ②履歴書 ③信仰歴 ④所属教会牧師の推薦状 ⑤召命に関する短文(400字×3枚程度) ⑥最終学校卒業証明書 ⑦同成績証明書 ⑧健康診断書

* 入学試験日 *

- 第1回 2019年11月19日(火) 試験科目: 聖書、英語、ホーリネス
 第2回 2020年2月4日(火) 試験科目: 聖書、英語、ホーリネス
 第3回 2020年3月6日(金) 試験科目: 聖書、英語、ホーリネス

入学金: 50,000円/授業料: 年額 230,000円/寮費: 月額 5,000円/食費: 月額 15,000円

- 上記の外に研修費・教材費があります。※寮費・食費はその時の事情で変動することがあります。

ウェスレアン・ホーリネス神学院

連絡先: 〒111-0052 東京都台東区柳橋2-22-3 TEL 03 (3851) 3762

詳しくはホームページをご覧ください <https://whseminaryjimdo.com/>